

伊予里 市議会だより

第41号
平成24年
(2012年) 4月



がんばったよ～ (第7回キッズスポーツフェスティバル)



3月補正：3億599万円
補正後の予算

一般会計：227億4,300万円
(対前年度同期 1億1,656万円 0.5%増)

平成24年度当初予算
一般会計：204億8,400万円
(対前年度同期 209億9,700万円 2.4%減)
特別会計：156億2,732万円

■特集 2012年度予算を見る!!

★平成24年第2回定例会は6月11日(月)開会予定です。

平成24年伊万里市議会第1回定例会
会期日程

3月 開議時刻 午前10時

日	種別	内容
2(金)	本会議	開会 会議録署名議員の指名 会期の決定 市長提出議案41件一括上程 市長提出議案の提案理由説明
6(火)	本会議	議案に対する質疑
7(水)	本会議	議案に対する質疑 議案の常任委員会付託
8(木)	休会	特別委員会（交通・港湾・企業誘致対策）
9(金)	全休	（中学校卒業式）
12(月)	休会	特別委員会（防災・環境施設）
13(火)	本会議	一般市政に対する質問
14(水)	本会議	一般市政に対する質問
15(木)	本会議	一般市政に対する質問
16(金)	全休	（小学校卒業式）
19(月)	休会	常任委員会
20(火)	全休	（春分の日）
21(水)	休会	常任委員会
22(木)	休会	常任委員会
23(金)	休会	正副委員長会
27(火)	本会議	追加議案、意見書案の上程 追加議案、意見書案の提案理由説明 追加議案、意見書案に対する質疑 常任委員会報告 常任委員会報告に対する質疑 特別委員会報告 特別委員会報告に対する質疑 議案の付議順序により討論、採決 閉会

議会ホットコーナー

修正可決

暴力団排除条例

県条例の施行に伴い、市でも条例制定が求められたため、条例案の提案がなされました。総務委員会での修正を受け、本会議では、まず修正部分を全会一致で可決、続いて残りの部分も同様に可決しました。県内では嬉野市議会などでも一部修正可決となっています。

（13ページをご参照ください）



定例会会期日程など

意見書

戸別所得補償制度の見直し
等農業政策の立て直しを
求める意見書

農業・農村の衰退をくい止めるため、戸別所得補償制度の見直し等、政策の立て直しをなされるよう関係機関に求める
「以上、政府に提出しました。」

人事案件への同意

◎公平委員会委員

（計3名、任期4年）

大原巖さん（再任）

◎固定資産評価審査委員会委員

（計9名、任期3年）

高田貞金さん、浦田丈一さん、

島田美代子さん、本山邦彦さん

（すべて再任）

2012年度予算を見る

今議会で新年度の一般会計当初予算が決定しましたが、「総額204億8,400万円」と言われても、ピンと来ない方もあるでしょう。

そこで、市民一人あたりではどのような額になるのかを知るために、単純に総額を人口（57,600人として）で割ってみました。皆さんから頂く税金の使い道をご一緒に考えてみましょう。

	市民一人あたり(円)	主な内容
歳入総額	355, 625	国・県からの交付金、寄付金、利用者負担金など
(市税)	(111, 684)	(市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税など)
歳出総額	355, 625	
議会費	5, 110	議会の運営、議員報酬、視察旅費、政務調査費、議会だより
総務費	44, 570	市役所の運営、広報、市民センター
民生費	142, 095	老人・児童（保育園など）・障がい者への福祉
衛生費	24, 860	環境センター、各種検診、休日夜間急患センター
労働費	2, 802	労働者福祉、緊急雇用
農林水産業費	13, 130	農林水産業への支援、有害鳥獣対策、農村環境の保全
商工費	8, 219	商工業への支援、観光振興、地域交通
土木費	27, 897	市道・市営住宅・都市公園の整備
消防費	13, 208	消防救急体制の維持、消防団への支援
教育費	30, 315	学校運営、学校給食センター、公民館、図書館、スポーツ関係
公債費	41, 942	これまでの借金の返済
その他	1, 477	災害復旧費、予備費など

※この他に、国民健康保険、介護保険、公共下水道などは特別会計で、水道・工業用水道は企業会計で事業が実施されています。

※予算に過不足が生じた場合や新たな事業が行われる場合には、原則として6、9、12、3月議会に補正予算が提案されます。

※伊万里市の「予算（説明）書」は事業別に表記されており、それぞれの事業がどのくらいの予算で計画されているかを見ることが可能です。また、別冊の「予算の概要」には主な事業の内容が説明されています。なお、「予算の概要」は市のホームページに掲載。これに加えて「予算書」は市役所1階市民サービスコーナーと市民図書館で閲覧できます。

※ 職員の人件費は、「総務費」など各々に計上されています。



総務委員会

★所管 総務部、政策経営部、市民部(戸籍・住民登録等)、会計課、消防本部、選挙管理委員会、監査委員、他の委員会に所属しない事項

当委員会に付託されました条例議案9件、一般議案1件、23年度一般会計補正予算、24年度当初予算について、3日間の審査の結果「暴力団排除条例」に関しては一部修正の上、その他は原案のとおり可決すべきものと全会一致で決定しました。

暴力団排除条例

県条例の施行を受け、県から示されたモデル案を元に、市に関係する事案について条例化するもの。当委員会では時間をかけた委員間討議の結果、市民の「責務」を明記するのであれば、市民の不安を少しでも除いて安心安全を守るために北九州市などの条例を参考として、第8条の「市民等への支援」をもっと具体的な表現にすべきではないかとの意見が強く、継続審査を求める意見もあったが、一部修正を行うに至った。

- ・市が行う市民等への支援として「暴力団員に対する請求に係る訴訟の提起」も明記。
- ・排除のための活動により、市民等が危害を加えられるおそれがあると認められる者には、警察署や関係機関と連携して必要な支援を行うことを明記。

伊万里・有田消防広域化協議会の設置

県内で消防を単独の自治体もっているのは、伊万里市と有田町のみであり、今後のデジタル無線化などがスムーズにいくよう、広域化の協議を始めるための協議会(首長、正副議長、消防長で構成)を設置する。

24年度一般会計予算

厳しい財政状況の中、1987年度に購入した消防の救助工作車を5年リースにより更新すること以外に新たな事業は少ない。そのうち特に以下の2点については議論が集中したため、委員会報告に意見を付記した。

①次代を創る研修事業

1988年度に竹下内閣下で「ふるさと創生1億円」が交付され、伊万里市では「人材育成基金」として積立。その利子運用で11回(約80人)に及ぶ海外派遣事業を行ってきたが低金利により中断。一般質問や関係者(グローバル伊万里海外派遣研修団連絡会議)から復活の要請があったため庁内で検討し、伊万里市にとって必要な事業としてグリーンツーリズムの研修に7人(負担金1人10万円が必要)をドイツ・オーストリアへ派遣する予算が計上されている。人材育成の必要性は認めるが、財政状況厳しい中でもあり、関係者と行き先や目的について協議し、より実り多い研修となることを要請した。

②わがまち・わが家の防災マップ作成事業

各行政区ごとに防災マップを作成する費用(1行政区当たり1万5千円)を3年間で全行政区に補助するもの。地区を熟知した地元が作成する意義は認めるものの、地区によっては実施が困難な場合も想定されることから、地元との協議を尽くし、作成を強制することがないように要請した。

※委員からの要請で配布された資料

- ・信号機設置に関する順位付けの仕方
- ・消防防災ヘリとドクターヘリの比較表
- ・20周年を迎える市民センターの補修計画



現在の救助工作車

◎渡邊 英洋 ○盛 泰子
内山 泰宏 東 真生 副島 明
馬場 繁 山口 恭寿 松永 孝三

文教厚生委員会

★所管 市民部（保健・福祉・環境・人権同和）、
教育委員会

当委員会に付託されました条例議案9件、一般議案1件、23年度一般会計並びに特別会計補正予算と、24年度当初予算並びに特別予算について審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

子供の医療費の助成に関する条例の一部改正

これまでの助成の対象である6歳までの入院・通院から、新たに小・中学生（15歳まで）の入院を助成対象に拡大するための改正。なお、助成方法は、償還払いとなります。

介護保険条例の一部改正

平成24年度は、3年を1期とする保険事業の第5期事業計画のスタートでもあり、保険料の改定とも連動している。伊万里市の介護保険事業の現状として、サービス利用割合が18.9%、一人当たりの月額給付費も28万1千円と県内で一番高く、要介護者やその家族の労力の負担軽減に役立っている反面、利用割合が高くなれば保険料が上がる制度上の説明があった。

今回の改正においては、基金等の取り崩し効果は258円で、基準保険料は月額5,795円と定められた。低所得者層に対しては区分の見直しがなされているが今後の推移が危惧される。委員会の中では、予算を含めたさらなる介護予防の充実の意見が出された。

敬老祝い金支給条例の一部改正

現在の支給対象で推移したとき、大幅な増加傾向になるため88歳（米寿）に3千円、99歳（白寿）に5千円と節目の年齢に重点的な支給に改定されます。

24年度当初予算（民生費・衛生費・教育費）

○障害者自立支援給付事業

自立支援法の改正に基づき、一人では外出

困難な重度視覚障がい者の移動支援を給付の対象にし、ヘルパーが援助する「同行援護」サービスや、グループホーム等利用者への家賃補助が受けられるようになりました。

○障害児通所給付事業

障害者自立支援法及び児童福祉法の改正により、福祉施設への通所サービスに対し給付を行う。（県→市へ移譲）

○休日・夜間急患医療センター運営事業

4月1日に新たにオープンし、休日・夜間における小児等の初期救急医療体制の確保を図るもの。（9時～17時・20時～22時）

○予防接種事業

感染症の未然防止や小児・女子生徒への各種予防接種（子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン）や高齢者のインフルエンザ接種等。

○特別支援児童生徒サポート事業

小・中学校において支援を必要とする児童、生徒に対し学習・生活支援を行い自立を支援する。雇用職員8名増。

○市小中学校規模適正化推進協議会事業

少子化等による社会変化も進み、新しい学校の形態も現れている。教育委員会の諮問に応じ、全市的な立場で学校の規模適正化を図るための協議会を開催するため。

○国見台体育施設改修事業

庭球場改修は2年目に入り、4面を6面にし人工芝コートで雨天時も大会可能。又陸上競技場の改修は、主に400mトラックを中心に改修予定。又、徒渉プール改修工事は、フェンスの設置や、給水管の敷設替・プール塗装、地面の不陸補正が中心です。（現地を視察し、説明を受ける。）



補修中の徒渉プール

○樋渡 雅純 ○福田 喜一
前田 久年 井手 清敏 梶山 太
多久島 繁 草野 譲 高木 久彦

産業建設委員会

★所管 産業部、農業委員会、建設部、水道部

本委員会に付託されました条例議案2件、平成23年度伊万里市一般会計補正予算 特別会計予算。平成24年度当初予算 特別会計予算について審査した結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【産業部】

- ・県の緊急雇用創出基金事業で、伊万里市では本年度も25事業において新規雇用のべ52人の就労機会を作ることになっています。
- ・活気あふれる産業づくりとして、農林水産業に対し、前年に引き続き中山間地地域等直接支払金制度をはじめ各種支援事業予算が組まれています。新規として、地域農業マスタープラン作成や新規就農者確保事業、有害鳥獣対策については銃猟狩猟免許取得促進補助金が新設されました。
- ・観光事業活性化の一環として、4月から市の観光部署を伊万里市駅ビルに移転常駐させます。伊万里市観光協会との連携を深めるとともに、内外からの観光誘客を図る活躍が期待されます。なお駐車スペースについては4台分を観光協会と協議して対応したいとの回答がありました。
- ・市街地を巡回するいまりんバスに加えて、本年7月から 市街地4km圏内路線バス（仮称）が運行する計画になっています。運行ルートも地元や市議会からの要望が考慮され、市民のみなさまの身近な交通手段としての期待に沿うよう、運行が準備されています。
- ・都川内ダム森林公園内でゴルフ練習をする人がいる件で、他の来園者への危険があることから

現地視察報告（3月21日）

七ツ島コンテナターミナルのマイナス13mバース拡張工事現場を視察し、国土交通省伊万里港湾事務所長より説明をうけました。

伊万里港は国の重要港湾指定に続き、「国際海上コンテナ」日本海側拠点港の選定を受けましたが、このマイナス13mバース拡張工事とガントリークレーンの導入で、さらに大型コンテナ船受け入れ体制整備が進むものと期待されます。平成24年度中完成に向けて、着々と工事が進んでいます。



七ツ島コンテナターミナル

◎松尾 雅宏 ○前田 和人
香月 孝夫 井手 勲 松尾 博幸
笠原 義久 占野 秀男 田中 啓三

禁止にするよう申し入れをし、了承されました。

【建設部】

- ・安全で快適な地域づくりとして、市道整備や道路維持を行っていくと同時に、道路橋の老朽化対策として橋梁長寿命化修繕計画を策定する事となっています。
- ・住宅リフォーム緊急助成事業については、伊万里市は申請される方が多く人気が高い事業であり、24年度についても早速4月23日からの1週間受付をされるとのことです。
- ・ファミリーパークの整備についての今後の予定を質したところ、よほどのことがない限り追加工事はないだろうとの回答があり、また隣接の黒澤記念館予定地だった土地については今後の懸念材料であり、普通財産として管理していく予定であるとの説明があった。

【水道部】

- ・24年度から有田川浄水場施設更新事業が始まるとともに、屋敷野地区、大野岳地区、浦之崎地区において簡易水道整備が行われます。
- ・井手口川ダムが完成しましたが、24年度は引き続き、付け替え市道工事や周辺整備工事が行われます。
- ・第4工業用水道事業貯水施設建設工事に対して仲裁申請がなされた件について、市民への説明責任が果たせないで説明を求めたところ、執行部としては何ら手落ちはなく、適正に入札・契約・支払事務がなされており、県へは適宜報告し同一步調で進めているが細部の事情については、今後の審理に影響する恐れがあるため回答することを差し控えたいとの説明があり、今後何らかの動きがあれば市議会に逐次報告するよう要望しました。

防災・環境施設対策調査特別委員会

1. 伊万里市の防災行政について

(1)玄海原発異常時の連絡体制について

本市から迅速な避難体制の構築について申し入れを行った結果、九州電力佐賀支社の方から、トラブル情報まで含めた形で本市へ速やかに連絡が入るように見直したとの説明を受けました。

また、佐賀県からの連絡体制においても、県に九州電力からの第一報が入り、知事へ報告があった段階で、同じ内容が県下全市町に対して情報提供されるように変更されています。

(2)今後の市の取り組みについて

平成24年4月から、災害全般の対策を実施する専門部署として、「防災危機管理室」が設置され、防災体制の強化が図られます。

2. 佐賀県西部広域環境組合ごみ処理施設について

(1)環境影響評価審査会の状況について

平成24年2月2日及び2月17日に知事の諮問機関である環境影響評価審査会が開かれ、「環境影響評価準備書」の審査が行われました。

今回の審査では、環境保全の見地から、より一層の配慮や努力を求める意見もあるようですが、事業計画に大幅な修正を及ぼす内容とはならない予定であるとの報告を受けました。

(2)大川町住民説明会の経過状況について

大川町における住民説明会のなかで、水源として利用している松浦川へごみ処分使用水を放流しないことの確認や、事業の安全性についての質疑などが行われたとともに、説明が遅すぎるなど、説明責任を追及する厳しい意見もあったとの報告を受けたところです。

◎笠原 義久 ○副島 明
香月 孝夫 前田 和人
梶山 太 山口 恭寿 樋渡 雅純

交通網・港湾・企業誘致対策調査特別委員会

唐津千々賀山田ICまで開通

本年3月24日唐津IC～唐津千々賀山田IC間4.5kmが開通した。谷口ICまでは平成26年度供用予定とされており伊万里市域によいよ間近に迫った感があります。

伊万里市域の平成26年度供用予定区間について取得が困難となっている用地について、土地収用法による事業認定を受けて解決されるとのことであり、開通に向けて万全を期すよう要望しました。

また、市の機構改革により国道と港湾対策の担当課が移管されるとの説明があったが、市内での道路工事等も今後増加してくる中で、住民からの苦情等にも素早く対応できる体制を取られることを要望しました。

国際海上コンテナ機能で日本海側拠点港へ

昨年11月に伊万里港が「国際海上コンテナ」機能で「日本海側拠点港」として選定を受けたが、七ツ島地区岸壁整備は平成24年度完了を目標にガントリ

ークレーン基礎工事等が行われ、県施工によりクレーンの据付等も行われる予定となっています。

また、臨港道路七ツ島線についても基本設計が完了したことにより、平成24年度には用地協議、七ツ島工業団地側より工事着工見込とのことでした。

事業再生計画

本年2月に半導体関連企業が「事業再生計画」を発表され、ソーラー用シリコンウエーハ事業からの撤退、約1,300人規模の配置転換・出向等の要員施策を明らかにされるとともに、一方、本市へは主力事業等を集約される計画であることから、影響は少ないとの説明がありました。今後は、コスト削減と大規模増資により経営基盤を強化し黒字化を目指すとのことであり、市内従業員の雇用の継続とともに早い段階での業績回復を望むものであります。

◎多久島 繁 ○松尾 博幸
井手 清敏 井手 勲
松尾 雅宏 高木 久彦 福田 喜一

一 般 質 問 (質問順)

一 般 質 問 事 項

議員名	質 問 事 項	議員名	質 問 事 項
井手 勲 (一問一答)	1. 教育問題について (1)全国的にみる佐賀県及び伊万里市の成績状況(過去4～5年) (2)ICT教育利活用の市の取組及び今後の進め方(メリット・デメリット) (3)中学校武道必修化 ①何故いま必修化なのか ②取り組み (4)児童虐待、いじめの現状 (5)給食費及び諸納付金未納の現状と対策 (6)害虫対策(まむし・ハチ・ムカデ)指導 (7)児童・生徒の推移及び小・中・高生徒の流出傾向 (8)学校教室の空調設置の取り組み (9)学校見守り隊他地域ボランティアの活動状況 2. 公共施設について (1)公共施設における便所の洋式化 (2)受動喫煙防止の取り組み	多久島 繁 (一問一答)	1. 日本海側拠点港選定による、今後の新しい工業団地への考え方について (1)川南造船所跡地の整備 (2)廃棄物処理用地の活用 2. 災害時の医薬品備蓄について
		梶山 太 (一問一答)	1. 伊万里の道路整備について (1)都市計画道路陣内白野線 (2)都市計画道路大坪小学校線 (3)セラミックロード 2. 伊万里の観光戦略について
		渡邊 英洋 (一問一答)	1. 環境センターについて (1)県西部ブロックごみ処理広域化計画 ①進捗状況 (2)現施設 2. 道路網整備について (1)臨港道路七ツ島線 ①取り組み状況 ②今後の見通し (2)国道204号線バイパス
樋渡 雅純 (一問一答)	1. 消防と医療との連携について (1)救急搬送の近況と本市の特徴 (2)新「救急医療情報システム」の活用と対応 (3)ドクターヘリ運用とヘリポートの確保 2. 介護保険事業について (1)介護を取り巻く状況と今回の主な改正点 (2)介護予防支援のあり方 (3)介護支援ボランティア事業	盛 泰子 (一問一答)	1. 危機管理について (1)九電への原子力安全協定締結申し入れ (2)消防相互応援協定と防災ヘリの状況 (3)災害時在校児童生徒への対応 (4)「経験」をどのように生かすか 2. 希少種への対応について (1)現在把握している数と種類 (2)未登録種に関しての県との連携と開発行為 3. 図書館政策について (1)学校図書館の状況 (2)「雑誌スポンサー」制度
		笠原 義久 (一問一答)	1. 山岡鉄舟展の開催結果と学校現場における郷土学について 2. 市報発刊目的と財政問題について
占野 秀男 (一問一答)	1. 観光行政について 2. スポーツ都市宣言の意義と活動について	副島 明 (一問一答)	1. 伊万里市散弾銃射撃場周辺の土壌検査、水質検査について 2. 伊万里地区における高等学校の将来像について政策としての考え方 3. 伊万里市旅費規程(定額支給)の見直しについて
福田 喜一 (一問一答)	1. 障害者福祉の支援について (1)障害者雇用 (2)障害者相談員事業での市の指導は (3)市内各障害者授産施設(作業所)の作業斡旋 2. 町公民館の障害者トイレ設置について (1)東山代町公民館障害者トイレ 3. 僻地学校のこれからの教育について (1)滝野中学校のこれからの諸問題	田中 啓三 (一問一答)	1. 伊万里市幹線道路整備 (1)伊万里市主要道路の優先順位 2. 市街地4キロ圏内路線バスの運行ルート
		山口 恭寿 (一問一答)	1. ICT教育の推進について 2. 伊万里市職員提案制度について

一般質問

教育問題について

井手 勲

質問 全国的にみる佐賀県及び伊万里市の過去4～5年間の成績状況

答弁 教育部長

毎年小学6年生と中学3年生を対象に行われている全国学力学習状況調査の結果、伊万里市の成績状況は、小学6年生で平成19年～21年は全国平均と同様で、平成22年度は国語は下回り、算数は上回っている。中学3年生は、国語で平成19年～22年の4年間全国平均同様で、数学は平成21年までは上回っていたが、平成22年度は全国平均より下回った。因みに佐賀県の成績状況は、小学6年生も中学3年生も全て、全国平均を下回っている状況にある。

公共施設について

質問 公民館の温水洗浄便座設置をとの高齢者、障害者の方より要望が多い様ですが設置予定はありますか。

答弁 教育部長

全公民館に身障者用のトイレを含めた洋式トイレを設置しているが、多くの公民館で施設の修理事等維持管理費が増加しており快適な環境を整備するところまでは手が回らないのが実情だ。

質問 受動喫煙防止の取組について、本庁舎玄関横にある来庁者用の喫煙スペースは、風向きによっては、近くを通る人への健康被害が懸念されるが、庁舎の内外問わず、喫煙ルーム、喫煙ハウスを設置出来ないか。

答弁 政策経営部長

工事を伴う喫煙室の設置はスペース、経費の面で対応が難しい。(二部省略)

消防と医療との連携

樋渡 雅純

質問 ①本市における救急搬送の実態は。

②県において、「救急医療情報システム」を稼働させているが、受け入れ可否等の情報入力協力体制はとれているのか。

③本市でのドクターヘリの活用も増加中。臨時ヘリポートの指定箇所を更に拡大すべきでは。

④伊万里有田共立病院は、災害拠点病院としての機能の一つである、ヘリポートの整備がなされていない。今後の方向性は。

答弁 ①②③消防長 ④理事

- ①救急搬送2217件、現場到着時間7分38秒、病院までの時間32分15秒、管外搬送742件。
②月一回の研修会をはじめ、医師と隊員の連携を深め協力体制はスムーズに行っている。
③現在6か所だが今15か所調査中で、県でも再調査

が予想され増えると考えている。
④当面は近接地のヘリポートを使用し、今後使用頻度を考え判断される。

介護保険事業

質問 ①第5期の事業計画の中で、新たな視点として介護支援ボランティアがある。今後の取り組みは。

②今回保険料の基準額が改定されたが、抑制のため何を努力したのか。
③今後、介護保険制度がより身近になれば、サービスの給付と負担のバランスが難しくなる。今後の運営は。

答弁 ①②市民部長 ③市長

- ①県での検討会を踏まえ、市で議論していく。
②介護保険基金の残高の取り崩しや安定化基金を活用し料金の軽減を図り、また低所得層に新たな料金区分を設け急激な負担増に配慮している。
③大事なものは介護予防体制を更に十分に組み込むこととあり、その施策に力点を置いてやっていく。

伊万里市の観光行政とスポーツ都市宣言の意義は

占野 秀男

質問 伊万里市の観光資源は伊万里焼や高い評価の伊万里牛など数多くあり、もっと広くPRをすべきでは。

答弁 産業部長

現在も各種の行事を取組んでいるがPRを含め今後も努力したい。

質問 もっと工夫と努力を。例えば大川内キャンプ場は立派な環境にあるのに、テントプレイス15基全てが使用禁止で5年も放置されている。今後どうするのか。

答弁 市長

せっかくの施設ですから各種の補助制度などを検討し改修して利用拡大を図りたい。

質問 スポーツ都市宣言の目標と取り組んできたことは。

答弁 教育長

市民誰もがスポーツに親しみ、人間性や伊万里市の創造

一般質問

を目標に昭和52年に宣言した。

その後、施設整備、各種大会情報発信を取り組んだ。

質問 クレー射撃場の利用が少ないので廃止するのはスポーツ都市宣言趣旨とは違う。

答弁 教育長

問題は鉛の環境問題です。

質問 基準を超えた場所は以前の射撃場の着弾地で、市営射撃場の場外ではないのか。

答弁 教育部長

その通りです。しかし、基準があり影響があれば市有地外でも対応が必要。

質問 当時射撃場として利用することは地主も、町も地区も容認されていたのでは。

答弁 教育長

その通りだと思います。

質問 クレー射撃場存続の要請や署名が来ていると思うが、一方の意見だけで結論を出すのは性急過ぎる。時間なので6月議会で再度問いたい。

答弁 教育長

(答弁なし)

障害者福祉の支援

福田 喜一

質問 ①市役所での障害者雇用率は国基準に達しているか

②今後の対応

③障害者（手帳所持者約4千人）相談の状況

④授産施設への仕事斡旋と協力。企業へ依頼は出来ないか。

答弁 ①②総務部長、③④市民部長

①法律で雇用が求められており、平成23年度は週30時間の職員までが対象で達成出来なかった。12月に策定した計画書に明記した。臨時職員を5名採用し平成24年度には達成の見込み。新規職員についても考えていく。

③障害者の相談は県からの権限委譲で市の事業となるため、どこまで相談業務とし得るのか研修会を行う。

④様々な作業をされており、図書館や保育園の清掃、公文書の配達などを依頼

している。どのような仕事を望むのか情報を得て働きかけをする。

東山代公民館障害者トイレ

質問 前回の質問以降、変化がない。どうなっているのか。

答弁 ①教育部長、②市長

①個室本体改修を検討したがスペース的に困難。駐車場内での多目的トイレ設置も検討したが浄化槽までの距離が長く、結論に至っていないが、必要性は十分認識している。②リースでも可能だと思いい、検討を指示している。

滝野中学校について

質問 市内で一番老朽化。教育委員会はどうか考えているか。

答弁 ①教育部長、②市長

①以前、現地での改築を答弁したが、阪神大震災以降、教育施設の耐震化が喫緊の課題となり、国見中、二里小を優先した。②規模適正化審議会の答申によっては、小中学校の改築を講じていく。

拠点港選定を活かすため臨海型工業団地の整備を急げ

多久島 繁

質問 浦ノ崎失効地が整備された跡地の利活用はどうする。

答弁 政策経営部長

公園整備は「公園整備検討委員会」で協議し、跡地利用は伊万里湾開発をも含めての協議に入っていく。また廃棄物処理用地との一体的活用を考えている。

質問 廃棄物処理用地の工業団地化と、その進み具合は。

答弁 建設部長

「海上コンテナ」での拠点港の選定を受けて、臨海型企業が誘致できるよう工業団地化を急ぐ。現在、用地は3ブロックに分かれているが、中央の第1期工区の1の部分竣工も可能なので働きかけを強化していく。

まさかの大災害を想定して薬の「流通備蓄」が必要だ。

質問 東日本大震災後、薬品の災害時備蓄について論じられているが、市はどのような対応をしているか。又、旧休日・急患センター跡を利用した、伊万里市民のための薬の「流通備蓄」の考えはないか。

答弁 市民部長

災害時の緊急医薬品は県によって備蓄することになっているので、伊万里市独自の医薬品備蓄は今までもしていないし、今後も考えていない。災害時医薬品の3日分は伊万里有田共立病院でなされていると思う。災害時を想定しての流通備蓄は幅広い医薬品が必要であることと、個人の薬局にお願いすると不良在庫や多くの廃棄処分が懸念される。保管の費用がかさむことと、経費の算出も難しいので個人薬局にお願いするのは難しい。

一般質問

伊万里市の道路整備について

梶山 太

質問 陣内白野線について
答弁 建設部長

平成24年度に橋梁下部工護岸工、取り付け舗装工。平成25年度橋梁上部工、安全施設工及び舗装工で事業完了予定。

質問 大坪小学校線について
答弁 建設部長

陣内白野線終了後に他の路線との緊急性その他諸条件を考慮し、協議を実施し施工順番を決定していく。

質問 伊万里有田線について
答弁 建設部長

伊万里・有田を繋ぐ一般県道（通称セラミックロード）である。平成10年度より事業着手。伊万里の重要区間である二里工区については、現地の地形勾配、松浦鉄道存在、地滑り地帯という大きな問題によりルート決定もなされていない。

伊万里市の観光戦略について

質問 ハウステンボス周遊観光協議会について
答弁 産業部長

伊万里を含め9市町で構成され、会議が催され、県をまたがり連携を取っている。

質問 観光係の移設について
答弁 産業部長

他市を見習い、観光係を駅ビルに移し、本市の表玄関として機能させたい。

質問 市長

道路については外環状線を形成し、それに都市計画道路を組み合わせる。セラミックロードについては粘り強く交渉をしていく。

観光は市内の観光業界と緊密な関係を保持していき、外部からは食を通じての消費型観光に力を入れる。



環境センターについて

渡邊 英洋

質問 現施設は平成26年度で閉鎖の予定だが、閉鎖後の跡地、施設はどうするか、又、最終処分場の管理と併せてお尋ねしたい。

質問 市長・市民部長

30年間、大した事故もなく地元をはじめ、関係者に感謝している。閉鎖後の施設、跡地の活用については最終処分場を含めて、環境センター対策協議会を初め地元と協議を重ねながら進めて行きたい。

道路網整備について

質問 ①平成21年に国の直轄事業として着手した、臨港道路七ツ島線の進捗状況、又完成年度を平成25年度としているが、今後の見通しについてお尋ねしたい。

②5回もの「地元との意見交換会」を開催し決定した国道204号バイパス海側ルート、決定から1年以上経つが現在の取り組み状況についてお尋ねしたい。

質問 建設部長

①数回にわたり地元説明会、意見交換会等を行い、現在は工業団地側の地質調査、測量が終わっている。平成24年度は用地交渉が始まり、用地交渉が出来次第、工事着手になると思われる。又、完成年度は2、3年の遅れが見込まれる。

②現在、県に於いて本市との意見、要望等を考慮しながら、又、費用対効果を含め、絞り込み作業が行われている。今後このパイパス終点はどこなのか、誘致企業からの要望にどう対応するのか等、多くの課題もあるが、県との協議を続け一日でも早い「最適ルート」決定を願っている。

危機管理について

盛 泰子

質問 ①国・県が設置するモニタリングポストについての協議

②原子力安全協定の内容
③佐賀県には防災ヘリが無いが、消防としてどう考えるか
④市長はどう考えるか
⑤被災地派遣職員の経歴を生かす方法は、

質問 ①総務部長、②市長③消防長④市長

①県予算分の可搬式は3基、国予算分は唐津・伊万里に8基配分。場所は未定。電光表示のあるものを要請する。

②再稼働を含めた事前了解まで踏み込んで要求しようと考えている。

③県内消防長会でも防災ヘリの導入を県に要請している。

④市長会でも県に申し入れをした。

⑤報告書を公開し、出前講座に加える。

希少種への対応

質問 新たな希少種が発見された場合、県からの報告がないようだが県の見解は。

答弁 ①市民部長②市長

①レッドデータブック以降の情報は届いておらず、市に情報提供して漏れて絶滅に至るといけないため、提供できないとされている。

②開発許可などは市が行うため、情報共有が大切。市長会で要望事項とする。

図書館政策

質問 ①厳しい財政状況の中、「雑誌スポンサー制度」を導入してはどうか。

②県が進める「スポーツと文化部門を知事部局に移す事」は事前に教育長会などで協議があったか。

答弁 ①教育部長、②教育長

①導入を検討する。
②新聞報道以前には無く、数日後の会議で副教育長から口頭報告があったのみである。

市報発刊目的と財政問題

笠原 義久

質問 市報発刊の目的は

答弁 総務部長

伊万里市の現状を広く市民に知ってもらう為と、情報の提供と解説、告知など。

質問 平成22年度決算特集号は良いことづくめで市民には違和感を持つているが。

答弁 政策経営部長

ありのままの数字を出しているが財政問題としてはわかりにくい所があったかと思われ、今後市民に伝達するには、考慮と工夫が必要。

質問 市財政は実質公債費比率をみてわかる様に厳しい状況が続いている。市民との問題意識を共有し、中長期のビジョンを示すべきでは。

答弁 政策経営部長

第3次行財政健全化計画の中で示して行くが、情報

の市民との共有の機会を多く作る。

答弁 市長

財政の厳しさは依然として続いていく、健全化計画の中で必要不必要の歳出をきっちり抑えながら、財政規律を遵守していく。

「山岡鉄舟と郷土学」

質問 当市と関係の深い鉄舟展の入館者数が極端に少なかったその原因は。

答弁 教育部長

佐賀県との同時開催だった事とPR不足。

質問 鉄舟を知らないと同様、子供達は郷土を知らない。学校現場で子供達に伊万里の全てを見る、学ぶ機会を作るべきでは。

答弁 教育長

現カリキュラムの中では大変難しいが、市民団体の協力を得て、時間外の所で実施出来ればと考えている。

伊万里市散弾銃射撃場周辺の土壌検査、水質検査について

副島 明

質問 ①新年度、土壌検査の予算が付いてないが、どう考えているか。

②水質検査は天候によって差が生じる。地元の人に安心感を与えるためにも土壌検査をするべきだ。

③鉛への対応は大きく三つの方法が考えられるがいずれの方法も民有地の地権者の方の理解と協力が必要だ。

答弁 教育部長

①地元の要望で水質検査を実施、汚染は水から土に広がるので水質検査を行った。

②地元と協議し対応したい。

③庁内の検討委員会で対応を協議し進めていきたい。

伊万里地区における高等学校の将来像と政策としての考え方

質問 高等学校に関する関

係者会議のメンバーと議論の内容。

答弁 経営政策部長

メンバーは市内3高校の同窓会々長と伊万里市、有田町の関係課が出席。協議の内容は少子化に伴う学校再編の問題である。

質問 学校再編の協議前に、市内の高校に生徒を呼び込む方法でメンバーを拡大し、政策提案を議論する場の設置が出来ないか。

答弁 市長

考え方としてはそう思うので早速に実現したい。

伊万里市旅費規程の見直し

質問 見直しの内容と適用時期はいつからになるのか。

答弁 総務部長

バックが普及し安価な利用が可能になり、出来るだけバックを利用し領収書を添付することにより透明性が高まるため、4月1日から適用したい。

質問 市長決断の要因は。

答弁 市長

世論と他市の見直しも進んでいるとの判断である。

伊万里市幹線道路の整備

田中 啓三

質問 国道204号瀬戸・黒川線の道路改良について伊万里市の対応は。

答弁 建設部長

国道204号海側ルートについては、県と協議し見直し・急カーブについては今後対応していきたい。

質問 国道204号と臨港道路取付部付近の冠水対策の計画について。

答弁 建設部長

取付部の工事時、一体的な改良の必要性は認識している。今後事業計画の中で対応し進めていきたい。

質問 県道塩屋・大曲線の道路について改良すべき所があるようであるが、県に對し要望を行っていくべきでは。

答弁 建設部長

平成26年度に西九州自動車道が谷口インターまで開通により、塩屋・大曲線の

交通量の増加が予想される。黒川中学校跡前の危険箇所については、県に申し入れを行っていく。

質問 セラミックロード全長14km中、二里工区の4kmについてはルート発表もできていない現状で、早期のルート発表と着工を。

答弁 建設部長

現在行われているボーリング調査後、改めて土木事務所と協議を行い、地元建設協議会にも十分な説明を行っていく。

4km圏内路線バスの運行について

質問 本年7月から3コース、週2回、一日4便が増便になった事で多くの市民に利用して頂けるような運行計画を。

答弁 産業部長

フリー乗降の場所を出来る限り多く、又、利用者の利便性をかんがえ今後対応し、運行ルート等不具合が出た時点で、見直し等も行うしていく。

ICT教育の推進について

山口 恭寿

質問 市内小中学校の先生達は2人で1台のパソコンを使っている。佐賀県内その他市と同じように1人1台に出来ないか。

答弁 教育部長

平成24年度早々に1人1台対応する。

質問 市内の小中学校では2人に1台、中学校では1人1台、授業の際足りていない学校がある。パソコンの増設する予定があるのか。

答弁 教育部長

小学校は本年度、中学校は来年度までに実現させる。

質問 電子黒板・電子教科書・タブレットPCの今後の設置予定は。

答弁 教育部長

電子黒板については平成24年度の予算を使って、22台の増設を考えているが、電子教科書・タブレットP

Cに関して現在計画はない。

質問 近隣自治体では、学校ごとではなく全教室に対して電子黒板の整備がなされている。今の伊万里市のペースだととても追いつかないため、小中連携を進めている南波多小中学校をICTのモデル校にして進めてみてはどうだろうか。

答弁 教育長

まずは市内の教職員1人1台のパソコンの配備と1校1台の電子黒板を進めて行き、その後提案のようなモデル校を中心とした広がり求めていくことも検討していく。

答弁 市長

ICT教育は避けては通れないと自覚している。伊万里市の子供達が遅れることなく先生共々頑張りたい。



暴力団排除条例 修正内容

(市民等に対する支援等)

第8条 市は、関係団体等と連携して、市民等及び市民等により組織する団体が自主的に、かつ、相互の連携協力を図りながら暴力団員に対する請求に係る訴訟の提起その他暴力団の排除のための活動に取り組むことができるよう、これらの者に対し、情報の提供、助言その他の必要な支援を行うものとする。

2 市は、暴力団の排除のための活動に取り組んだこと等により暴力団員等又は暴力団員等から依頼された者等から危害を加えられるおそれがあると認められる者に対し、警察署その他の関係機関と連携して必要な支援を行うものとする。

※太字部分を追加しました。

行政視察受け入れの状況（平成23年4月～24年3月）

月	来訪議会名	人数	視察項目	
4	島根県益田市議会	5	学校給食センター	会
5	宮崎県西都市議会	3	婚活応援課の取組み、行政評価システム事業	会
7	埼玉県新座市議会	4	食のまちづくり推進条例、いじめなし都市宣言	会
8	鹿児島県西表市議会	6	総務文教委員会	委
10	石川県能美市議会	6	防災対策の取組み	委
	群馬県藤岡市議会	8	窯元を活かした観光振興	委
	北海道網走市議会	8	定住自立圏推進状況	委
	岡山県高梁市議会	9	市民図書館	委
11	茨城県石岡市議会	8	地域資源を生かした地域活性化	委
	熊本県人吉市議会	4	市民図書館	会
12	石川県白山市議会	6	伊万里まちなか一番館	会
1	千葉県君津市議会	5	婚活応援課の取組み	会
	奈良県大和郡山市議会	6	学校給食センター	会
2	広島県熊野町	6	家読の取組み	委
	宮崎県都城市議会	6	市民図書館	会
	佐賀県みやき町議会	6	婚活事業、空き家バンク	委
	石川県金沢市議会	1	伝統産業への応援策	会

※人数は議員の他、随行者も含まれます

※「委」は委員会、「会」は会派での視察を意味します

※多くの場合、伊万里市内に宿泊されています。伊万里市議会も出来るだけ視察先の自治体に宿泊するように努めています

※6、9、3月は議会中のため、視察申し込みはありませんでした

編集後記



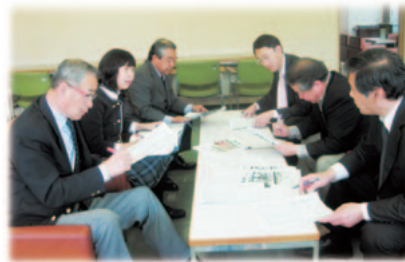
今年の桜の開花は、全国的に平年より遅れてはいますが、桜前線は只今北上中です。「サクラ」の由来は、「咲く」に複数を意味する「ら」を加えたものとされ、花の密生する植物全体を指したといわれていますが、他説に、春に里にやってくる稲（サ）の神がとりつく座（クラ）だから、サクラであるとも考えられているようです。

原稿締切が迫って焦る中、市内の名所では満開の桜の下、花見の宴もにぎわって、あらためてこの四季のある素晴らしい風土に感謝です。

今、全国の議会の中では、さまざま手法を用いて、「議会の見える化」に挑戦されています。その一つに、インターネット中継があり、本会議、委員会、特別委員会の審議の自身が公開・中継されています。井の中の蛙にならぬように活発な審議のありようを大いに参考にしていきたい。

この議会だよりも創刊より10年を過ぎ、殆どを、議員自らの編集で行うよき伝統を引き継ぎ、次の10年に向け委員

長中心にスタートしています。これからも、皆様の御助言等があれば嬉しく思います。
(雅)



編集委員

◎多嶋 繁盛 泰子
香月 孝夫 前田 和人
松永 孝三 松尾 博幸

顧問

前田 久年 占野 秀男
樋渡 雅純

発行

伊万里市議会

伊万里市立花町一三五五一
☎0955-23-25594
☎0955-22-1277
E-mail: jkai@city.imari.jp

編集

市議会だより編集委員会

印刷 山口印刷株式会社